



原 三郎
世田谷区・基礎
司 会



小野 慶三
荒川区・耳鼻咽喉科



熊谷美津子
杉並区・産科小科



鈴木 正夫
千歳市・基礎

座談会 われらの短歌と俳句

医家芸術編集委員
中野区・俳句
椿 八郎



医家芸術編集委員
渋谷区・耳鼻咽喉科
椎津 虚彦



豊島区・産婦人科
雨宮 虹月



中野区・泌尿器科
田村 一



歌を詠み始めた頃

原 お忙がしいところをありがとうございます。まずいつ頃、どんな動機で、最初のうたを詠めたかということからお伺いします。

鈴木 わたしは中学くらいから一人でやっていたんです。中学は愛知一中で宮田重雄の一年上です。愛知一中は先生がいいんです。要するに「言葉」というものを非常に愛すると。それから一高に來ても、いわゆる歌壇に入らず、一人だけで言葉を愛し、万葉を読み、自分でやっていたんです。結局大学を出てもどの結社にも入らない、どの先生にもつかないで一人でやっていたんですが、ちょうど昭和二年に、わたくし、当時千葉医科大学の助教になつていきまして、その頃ちょうど相模、鈴木英夫、柳沢とかが活発にやっていたんです。それは、みんな「歌と評論」の藤川忠治さんの弟子なんです。そういう人からみれば、やっぱり初歩でしょうね。まだわたくしは、彼らの会には出るけれども、あんまり認められないんだ。藤川さんがときどき來られるまして、いろいろ話をされました。

原 そうすると藤川さんが師匠ですか。

鈴木 ええ、藤川さんはすべてを指導する人ですね。そういう態度にひかれて戦争の最中で、藤川さんの「歌と評論」に入りました。

熊谷 わたくしは娘が、アララギ派のうたをつくっておりました、もう亡くなりましたけれども、それから伊藤左千夫とか読んでいましたので十四歳ころからしげんに作るようになりました。でも、そればかりでなくて、子供の時から百人一首を暗誦しておりましたのでしげんに三十一文字になじんでいました。そのあと啄木に影響されました。でも、どこの結社にも入りませんで、自分で日記のように作っているだけでした。今は師匠はあります。佐藤佐太郎先生です。

小野 わたしは、今考えてみると、そういう方面の養育は全然なかったんで、野間高等

（ここにちば・ひとこと）

今野 宏

日本節の乱れが、最近特にやかましく問題となり、そういう本を出せば必ず売れるといわれる。このことは、日本人全体が日本節に飢えている証拠である。

（福島県 外科）

学校の二年頃から、現在山形に開業している加藤という人が……これは、絵を描く人でしたから、うたや、絵のことをわたしにいろいろ話して教えてくれたんです。子供のうたなど、ちよつと教わったんです。

東京へ出るようになって、昭和三年のある時、神田の古本屋で赤木の「結集」があったので、それ買って読んでみたら、それからある感動を得まして、うたを作るような気持ちになつたんです。その後千葉大学に入りまして、アララギ系の茂吉の「短歌私抄の説」とか、赤木の「万葉集の経緯及び其批評」、ああいふものから入っていったんです。大学にも短歌会があったんですが、クラスの間好を集めまして、われわれ短歌会に出るほどの力はないから、勝手に勉強しようじゃないかと。生理の助教でいられた鈴木先生がそれを聞いて「ほくもいれてくれよ」というわけです。それで先生とわれわれ一緒に下宿をグルグル回って短歌会を始めました。

原 本格的になつたのは橋本徳寿さんについてからですか。

小野 はじめは西條茂吉の弟子になりたくて、茂吉の家を探したら、どうしてもみつからなかった。「屋上の土」を読んで、「青垣」

の古泉千種の前へ行つた、とこういうことなんです。それで昭和五年に「青垣」に入つたというのは、高等学校の時橋本さんの義弟になる人を知つて、「こういう雑誌があるから、兄さん（義兄）がこういう所に入つてやってくるから、入つたらどうだ」というから「じゃあ、わたし、入りましょう」と入つた。その時は大前長次郎が編集していたんですが、橋本先生はもちろん有力なメンバーでやっておつたわけです。その当時、大木子弟の関係というのは、とにかく「いいから、入る」という人はよほど好運な人です。最初入るのに……医者のことにしてもさうでしよう。この人は大家であるかどうかわからんから、とにかくマア、入るとい……。

原 橋本さんは、純粋無二の、押し強い、デリケートな人だ。僕はあの人が好きです。

小野 九月六日の朝日新聞でお読みになつたと思うんですが、短歌研究大賞を受賞しました。橋本先生には、戦後二十年くらいブラントしたんですが、それがまた復讐して、今先生のお教えを受けてるわけなんです。先生は「おれの真似しやいかんぞ」と云うんです。辛らつな人です。

「こんにちは・ひとこと」
黒田 誠郎
加藤浦三先生の紹介で邦楽の部に入会
させていただきました。早く芸術祭に参
加できるようにしたいものです。どう
か皆さん、よろしくご指導のほどお願い
いたします。
(沼田市 外科)

原 わたしは小学校のころです。やはり親
父から……昔のうたを作りますから教わ
たりして。熊谷さんがおっしゃったけれど
「百人一首」というのは非常に影響しまし
たね。それで中学二年の頃からうたをや
熱心に作って。だから「全歌集」には、中
学三年生から六十年にわたる歌が、下手
ですが出ておられます。それから東京へ
大正四年に出て来まして、日本医大の前
身の日本医専に入り、そこを退学し、わ
れわれが最初に今の東京医大の前身
をつくったんですが、学生時代と言っ
てもヒマがありましたから「嬰兒」とい
う短歌雑誌を出したりしました。中学
時代からあがっていた前田夕暮の「詩
歌」に入りました。当時は「詩歌」だけ
が厚い本で、「アララギ」なんか薄くて
。一般的には牧水、夕暮時代とも言わ
れたほどでした。私

は前田夕暮一本で生きて来ました。
それでは俳句のほうで、田村さんはずい
ぶ古くからですね。

田村 わたしはやっぱり中学時代から
です。親父が第一高等学校、医学部を出
て卒業してたんです。俳句が好きで「黒
雲」という雑誌を自分で出したんで、そ
の手伝いをさせて俳句というものを少し
知ったんです。だから非常に旧式の俳句
でした。

それから中学の時に、親父の雑誌には
出さないで、「毎日」へ投稿していたん
です。その遊者が石原先生だったんで
す。そういう関係で大正六年に慶応の
医学部に入るとまもなく原石先生、ち
ょうど麻布の鹿土町におられて、わた
しはそこへ訪ねていきまして先生によ
く指導を受けたんです。先生は元來、
医者の子なんです。どうしても医者にな
らないで、お父さんに「秋風や横櫓の
ちがふ里二つ」という句を出して、兄
弟の一人が医者を開業していた吉野山
にたてこもって俳句をやりだしたん
です。先生は大正七年に結婚して鹿土
町へ来たんです。ほくはその時から行
ってたんです。

雨宮 慶応で、「湧浪会」なんて会があ
ったですか。渡辺春魚とか土屋一志と
か。

田村 ええ、大正八年に医学部にお
りまして、その時分、石原先生に「一
つ、俳句会を医学部につくりたいが、
先生、名刺をつけて下さい」と「湧浪
会」というのをつくって、学生で俳句
をやったんです。それで、正木不
如丘氏も後で入って来ました。

昭和七年に河田町の女子医専に行
きました。学生の中には石原先生の弟
子が多かったです。学生の中には石原
先生の弟子が多かったです。学生の中
には石原先生の弟子が多かったです。
学生の中には石原先生の弟子が多
かったです。学生の中には石原先生の
弟子が多かったです。学生の中には石
原先生の弟子が多かったです。学生
の中には石原先生の弟子が多かった
んです。

原 田村さんの師匠は石原先生
ですね。田村 ほうは石原先生一本
です。「医家芸術」の昭和三十三年十
月号の座談会「忘れ得ぬ医者の集
中」の中に石原先生が、ほくが結婚
した時につくった句が出ています。
「春櫻あけてしげくなりしかな」と。

権津 いい句ですね。

雨宮 わたしが俳道に入ったのは昭和
八年、三十六歳の時、西伊豆の土肥
温泉、慶応義塾の副院長兼婦人科部長
をしていました。その頃、「大富士」と
いう俳誌があり、主幹が古見豆人とい
う方でした。ちょうどその年、古見先
生の令嬢がお前での病院へ入院し、
私が扱ったことがキツカケで、先生
から俳道へ誘われたのです。当時盛ん
にあちこちで句会が開かれ、その都
度私も引張り出され句をつたてた
んですが、ロクなものはいりません
でした。ところが句会の際、「鶴岡の
朝を落したる水鏡かな」という句を
出したところ、これがなんと、その句
会でトップ選になり、豆人師が賞
賞して、それで自分も多少賞がある
と記憶、本気でやり出すようになった
と思います。以後四十年以上、

土方久顕

「こんにちは・ひとこと」
(沼田市 外科)

いまだに続いている訳です。大東亞戦争の頃、一時中断しましたが、昭和二十年四月の空襲で診療所が灰燼に帰し、信州の郷里へ逃し、昭和二十一年上野病院へ勤務することになってから、また句熱が燃え上り、白衣句会なるものを作り医師、看護婦など引っぱり込んでやりました。その頃上野病院におられた正木不如丘先生がバックアップして下さいました。それから昭和二十六年に上京、現在地に開業し、同じ区内の俳誌「白炎」主宰、河合吾人師の御世話になり、同時に豆人師の御指導も受けて勉強していましたが、昭和二十八年にはこの両師のバックアップを得て豊島区医師会文化部の仕事として「芳那俳句会」なるものを創設し、今日まで毎月休みなく句道修業を続けています。途中で豆人、吾人両師が不幸鬼籍に入られてからは、私が主宰という形になっています。

権 わたしは、うちは中学時代、白秋に打ちこんでいます。まず第一に「思い出」、次に「國の花」そして「系統」の短歌を院さんです。そういうところが、わたしの叔母の家に、東京の英語の学校を出たきれいな女の人が来て、それがア、恋しちゃったんです。え。その人に、いくつうたを贈った。相聞歌という程のものでもないですが、年が違わんから。むこうは二十ぐらいで、ほくは中学三年生、十六歳だから。うたを贈って、そのまんまで……短歌はやめた。ところが、ごく最近になって、五年間でしたか、原先生が「おまえ、春草会へ出てこい」と云うんです。原 春草会は歴史のある会
で、医者が多いんです。権さんに会を中興してくれ、って云ったんです。権 それで出て、会を牛耳っている岡田道一が「おまえ、短歌に入れ」って。兼題も作っていたんです。だからわたしの短歌というのは兼題つきりしかやらない。俳句のほうは、富田重雄がやってたんです。「おまえも一つやらんか」と富田にすすめて、それでやりだしたんです。から、十年ちょっとですかねえ。その前に不
如丘が

武井 武司

昨年春、今井知文先生に餘筆のとり方を教えていただいた。その時、匿名芸術に仲間入りして一年半。このたび都美術展に初出品初入選し、先生にも喜んでいただいた。
(江戸川区 内科)

べん、句会をやったんです。真原療養所でやるからおまえ出ると。それで出た時には俳句なんてものは、あんなものなんでやるのか、なんて、まるでバカにして(笑い) 宮田もそうだったよ。

権澤 わたしの俳句は先生方に比べればぜんぜん新しいんです。昭和十六年頃に、林福先生を主宰として「四谷文学会」というのを機応の中に作ったのです。そこで我々みんな創作をやったんですが、昭和十八年頃から小説が当局によってすごく制約を受けはじめたわけです。たとえば男女関係のものは一切書けない、「援助」という言葉が出てダメだということ、小説が書きづらくなりました。しょうがない、じゃあ小説を書きながら俳句でもやるんじゃないかという事で、文学会のルームが信濃町にありまして、そこへた

なってくるんじゃないかと思う。方法としては暗示や比喩が用いられますよ。特にメタファーが。しかし短歌と俳句の根本的な違いは、やっぱり、情と知でしょうね。

短歌というのは、季節が入らなくてもいいけれども、俳句というのは、やっぱり一つの約束として季節を重視します。ただ、いま季節が約束であるために現在では逆に拘束になるんじゃないか、縛られるんじゃないかと三つ見方をする人もいます。前衛の人たちがいわゆる定型詩としての俳句は認めるけれども、いわゆる季節は否定するという立場の人がかなりいますね。だけれども季節というのは、日本に住んでいる以上、日本で俳句を作っている以上、季節は我々の周囲に「人事」を含めて非常に沢山あるわけですから、自然に入ってくるわけでしょう。

小倉 静夫

開業医には定年がない。あちらに行くまで働くことになる。還暦という昔からある区切りを利用して、今年を私の定年と決めた。これからは旅行や趣味に比重をかけた。
(札幌市 内科)

てこもって毎日毎日俳句を作ったんです。その頃、ここにおられる田村先生のお宅に伺ったりして句会なんかやらせていただいた。「金魚」という感題が出て、「真向いととなりし金魚の目と口」という句を田村先生がお作りになって、感心したもんです。

その後「波柿」から分れた「あら野」の同人連で戦後創刊された「冬の日」と云うのに呼ばれて昭和二十七年に入会しました。主宰は小笠原樹々という人です。もう亡くなりましたが、昭和三十年に「冬の日賞」というのが設定されました、わたしが第一回の賞を受賞しました。同じ三十年に今度は「冬の日」を改題しまして「群」になりました。「群」の第一回「群賞」をわたしが昭和三十四年にももらいました。その頃から俳壇に少しずつ認められてきたわけなんです。

そのうちに小笠原主宰から奥野定男という人に代って、その時にわたしが編集長をやっておりました。四十年頃から「群」が同人誌となり一般からも募集しました。その主宰に私がなりまして現在に至っているわけですが、現在は「群」のほうは殆ど雑誌を出してありません。句会は今やりますけれども、それから今、ロータリークラブで俳句の指

それから、前衛の人たちでも、金子兜太なんか、いわゆる前衛の旗がしらですが、そういう人たちの最近の作品の中に季節が重要な役割を担って入っているのが見当ります。そういうわけで季節を全く否定するということは逆に非常にむずかしいことで、特に自然と人間との結びつきを詠む場合、季節を意識的に避けることの方がむずかしいと思いますね。季節というものを徹底的に否定すると俳句は作れなくなってしまうんじゃないかと思

う。ただし季節の入り方が問題で、伝統俳句においても、季節が一句を成立させる上で必然性を帯びて入ってこなければいけないと思。それが創作過程を経て、表現過程に入ってから、はじめて季節がおざなりに入るようでは、多くの場合季節のみが浮き上ってしま。うおそれがある。何でも良いから季節を入れれば俳句になると思われては困るわけです。

小野 夏目漱石は五篇ですか、熊本におられた時、季節を否定していますね。

田村 一時は、季節なし……井泉水水もないに季節なしで。これは一時「ホトトギス」でも、非常に論議したんですね。

権 季が入る、入らないという問題の前に季節がなぜあるか、ということを考えなければ

導というとおこがましいんですが、毎月一回句会をやって、選者をつとめております。これはなかなか活発です。

多くの先生と称している人は三人くらいいる、俳壇に。まず小笠原樹々、奥野定男、もう一人は角川源義——角川書房の。「おまえは、おれの弟子だ」と云っていたんだけれども、わたし自身が「先生」だと思っているのは、その中のたった一人奥野定男しかいないわけです。もう亡くなりましたが、だけれども、先生を持たないということは、今になってみれば非常にさみしい思いがしますね。

俳句は知性、短歌は感性

原 同じ短詩型で、俳句と短歌が違うという点を見ると、ほくは、俳句というのは非常に知性で、短歌というのは、非常に情感、感性だと思ふな。

権澤 そうですね。短歌のほうは、あんまり知らないんですけども、短歌はまだ、ものの云える詩です。俳句はまるっきりものが云えない。ですから、ものを言いたい時には象徴にたよるほかない。これから先は象徴というものに頼らないと、ものが云えなく

ばいけない。ほくは、季節が入ることによって、象徴の俳句ができる。季節がなかったら、象徴できないんじゃないかと。

権澤 象徴的表現を探る場合、季節は特に重要になって来ますね。

原 短歌と俳句を一方のみ作るのは普通の道だと思ふんです。しかし、二つ好んで作っている人があるんです。

もう一つは、俳句から短歌にいき、短歌から俳句にいく人がある。たとえば短歌から俳句にいったのは、水原秋桜子さんでしょう。あの人は窪田空穂門下としてやっていた。しかし、俳句へ行つたでしょう。そうしてあれだけ立派な作品を出した。もう一人は馬場柊村ですが、ほくらは「嬰兒」という短歌雑誌を一種に五十七、八年前に出していたんです。同級生で最も親しい友人だったんです。歌もなかなかよかったです。俳句にいったんです。俳句というのは、非常に知性ですね、頭が要る。ほくは甘いもんだから、情感的なもんだから、短歌を愛した。梅さんは短歌と俳句をつくるけど、どうもほくは作品にもたらないものを感じるんだけれども。

北野 佐十郎

「恍惚の人」と言ってもいわゆる年齢ではなく、常に頭腦の修養と芸術に打ち込むは万年青年、医家芸術クラブ員諸先生方の記事を拝見してその心意気と信じます。
(北海道 内・小児科)

権 それは、ジレンタントだから、一つにこだわらない。

原 鈴木さんは、俳句作れますか。

鈴木 ぼくは絶対ダメ。わからないんだ。

わたしはやっぱりセンチメンタリストですよ。

原 科学では知性の人だけだね。熊谷さんは、俳句を作りますか。

熊谷 作りません。

医歌人、医俳人

原 医界の人で、茂吉以外の医歌人はだれを挙げる？

鈴木 岡山巖くんだね。

原 短歌一本に打ちこみましたね。それから松岡貞徳、宇都野研、氏家信、安部路人ら

です。それからこの間亡くなった「原始林」の……。

熊谷 山下秀之助先生。

原 現代短歌では上田三四二君。この人は本格ですね。人柄もいいし、上品だ。

権津 評論がいいですね。

熊谷 尊敬します。つつしみ深いというか謙虚ですね。とても勉強していらっしやいますし、まだまだ伸びる方ですね。

小野 評論はともいいですね。しかし作品に対しては、やわらかすぎて、上品で、わたしは少し不満がありますが。

権津 ぼくは今、俳壇で偉いと思うのは、秋桜子さんがあれだけのお年でですね、それに一昨年急に倒れられかなり入院されていたけれども、去年のあの人の句業というものは大へんなんですよ。秋桜子の句文集というものが去年出ましたけれども、ぼくは秋桜子俳句はいわゆる感覚的にはあんまり好きじゃないんですよ。俳壇における秋桜子の業績というものは大へんなものだと思うんです。それで現在なお秋桜子を含めて四Sが全部残ってますから、おそろしいものだと思うんです。

原 亡くなった龍庸夫さん。それから先対

たご自分のものを一つ挙げていただきたいんですが。

鈴木 十一月号に出ると思いますが「わがやどのいささ祈竹老いわたりまことかしこき影をあたる」。これは、有名な大伴家持の「わがやどのいささむらたけ吹く風の音のかそけきこのゆふべかも」の、その上の三句をいただきました。「わがやどのいささむらたけ」と。これ、わたしの家を昭和二年に建てた時、竹を植えて、竹藪の家というのになつちやうなんです。それがだんだん衰えまして、ダメになった。ところがこの五、六年、また回復しまして、どんだん反対のほうへ移りまして、なかなかいい竹になった。その歌を十一月号に運筆しております。

小野 唐招提寺へ行つて……仏像にとつてもひかれまして、こんな変なうたを作ったんです。「仏の役終りし如来形立像肢体豊麗にして首なし手なし」。

原 田村さん、一つ。

田村 「鳥松松ちいさく翁をいただけり」それから「もみ手して病腰を聞く火鉢かな」。

原 それはいいな。田村さんはいい歌をつくるのに、句集が一冊もないのは惜しいな。

熊谷 わたしは「とどまらず湧く水音の寂

も述べた東京医大の理事長している馬淵柳木くんの俳句は本格ですね。とくに「この二、三年來、医俳人として大をなすでしょう」。

権津 「初雁」の主筆でしょう。

原 今の俳人は歌人より人口がずっと多いでしょう。

権津 そりゃあ、俳句ですよ。四百万から五百万だろう。これはかなわないんですよ。ただ今のごく若い世代は、日本語の教育が全然なっていないから、今の若い人にはこれから俳句が作れないでしょう。それから新人があまり出てこないということです。おとしですけれども、結局一ばん活躍したのは巨匠ですよ。秋桜子さんはじめ巨匠が活躍して中堅が伸びなかった。それから、ずっと悲願的なことは、これからの日本を背負って立つ若い世代が、俳句とはもう無関係ですね。われわれが死んでしまつたら、おそらく俳句は、あとを継ぐ人はいないんじゃないかと思うくらい。

近録一首

権 この座談会の最後に、最近の氣に

しきやいま聞く音はずでに過去の音」というのを「短歌研究」八月号に出したんですけれど。

権津 わたしのは、ヨーロッパに行った時に良い俳句ができなくて困ったんです。それで北極圏を通った時にできたのが、このたった一句だけなんです。ぜんぶで百句くらい作りましたけれども、氣にいらぬのはこの句くらい。「五月なほさい理の水芭蕉々し」。

而宮 「初雁」で、特木先生に非常にいいとほめられた句ですがこれを一つ。「つがぶてかと思えしが翔てり菓雀」。

権 ぼくは「知られなきことあり秋の雨」。

熊谷 意味深長ですね。

原 ぼくは「安業死のことを思いて年久し俾らずいふ人のこのろふへぬ」という一首を作りました。

今夜は皆さん、お気軽な御氣持で自由に語っていただいてありがとうございます。

終

(昭和五十年九月二十五日 於・兩國酒家原宿店)

【ある日の出来事】

川島 恂 二

(古河市 田村)

十月四日(土)

今日も八時から六時まで患者提議。明日の日曜は一日中採談書きた。と、夕飯後ちよっとだけ何っていいかと市史館蔵中の同僚小沢女史(学習院元玉門下生)からの電話。泉石日誌を解説中の女史からの相談は古河藩家見泉石と渡辺半山の関係。泉石は日誌に半山をすべて登と呼びすてで、この分が少し出た。これに廣見家からの半山の手紙二通(一通は小生紹介で、半山の世界情勢と対露政策。東北大佐藤員介教授、小説家杉浦明平氏らで集まり、昨年の岩波日本思想大系に採録)の外に、今回女史は廣見家に別の二通を見出し、その一通を共に検討し、日誌と照合して、半山の泉石初対面は天保四年と出た。ついでに日誌から泉石が高野長英と会うのが天保五年。それから佐幕開港論の洋学塾中里石をめぐって塾社の歌、大塚の嵐、時の暮末情勢を語り、患者も採談も忘れて、語がはずんで十二時まで。ああ、いい氣持だった。



齋藤 歌子
(港区 小児科開業)



熊谷優利枝
(杉並区 産・内・小児科開業)



金井 美津
(文京区 循環器科開業)

座談会

女医の喜び 哀しみ



昭和52年2月3日・於南園酒家原宿店

司会 椿 八郎
『医家芸術』編集委員



牧野 順
(港区 眼科勤務)



清見 明子
(杉並区 形成外科勤務)



一生続けられる仕事

榊 しばらく女医先生方の座談会をやりませんでしたが、まず医者におなりになった動機をお話しいただきたいんです。まあ、お父さんとお医者さんだったり、お母さんがお医者さんだったり、そういう関係の方が多いと思うんですが、清見さんはどうですか。

清見 私のうちもそうです。父が医者なんです。

榊 何科ですか。

清見 今は皮膚科と泌尿器科をやっております。

榊 お父さんが医者になれとおっしゃったんですか。それともなにか医者に対するあこがれみたいのものがあつたんですか。

清見 手に職を持ちたかつたからです。それからやっぱり環境が一番……父も母も両方とも医者のうちに育つてますから、私が医者になつた時、一番うれしかったのは父ではないでしょうか？

榊 専門をお選びになつたのは？

清見 私、形成外科なんですけれども、理由というのは……手術が好きで……好きでなりたいとおかしいですけど、学生時代にオ

ペ室の雰囲気は慣れてまして、形成外科に女の先生がいらつしやうって、一人の方が十年ぐらい、もう一人の方が八年ぐらい、長く大学病院に就つておられるということは私でも続けられるんじゃないかと……。

榊 斎藤さんはどうですか。

斎藤 そうですね、親戚が医者だし、一生続けられる仕事だと思つて医者になりましたけど、はじめはイヤでした。本当は津田の英学塾か女高部へいきたくつたんですが、私の父がやつぱり医者のほうがいいと、こう申しますんで、それで医者になりました。

榊 それでは専門をお選びになつたのは？

斎藤 私、東京女子医専なんですけど、はじめ岡本内科におりましたんですが、ツベルタリンがぜんぜん陰性で、医者になつて結核の患者を持つてから陽転したんですね。初感染から助産になりまして、水が溜つて、それが治り際にブノイモトラックスを起こしてまた水が溜つて、それで一年ぐらいただめたつたんですね。それで治つてから、内科は範圍が広いしというので小児科に替つたんです。

榊 身体を楽しようというわけだ。

斎藤 そうなんです。それで岡本先生に紹介されました。警察病院の小児科にいきました。

たが、終戦のころは男の先生がみんな心召しまして、医長と私ともう一人女医さんと三人でやつたんですよ。すごく忙しいですけども、張り切つて五十人から六十人の外来を三時間ぐらいで診ましてね。入院から全部やつたんですよ。それで大変勉強になりました。すごく実力がついたので思ひましたよ。

榊 金井先生は……。

金井 私のところは家業は職人でした、とくに医者の家系ではないんです。ただ子供のころ、うちの者が病気をしたときにお医者さんに来て頂く、「お医者さんてありがたい、いいなあ」という漠然とした憧れみたいなものがありました。けれど自分ではまさか医者になるとは思つてもみませんでした。私はとくにスポーツが好きで、じつは医者になるまえに体操の学校に入つてました。そこで終戦を迎えたんです。終戦でガッパと世の中の風潮が変わりました。つまりいつの時代でも、どこに行つても、言いかえれば縦からみても横からみても、誰にでも役に立つて喜ばれる、そして自分の生計も立つて家族も養つていける職業ということで「医者になろう」と決心したわけなんです。そしていまの女子医大に入りま

してどうにか医者になつたんですけれど、私、はじめは事情で耳鼻科に入学したんです。その耳鼻科で「慢性扁桃炎における心電図の変化」というテーマを手えられまして、外科と一緒に仕事をしているうちにそっちの方がよくなつちやうて外科に入学致しました。当時は外科もいまの日本心臓血圧研究所（心研）も一緒でして、榎原先生は心臓の手術をするのには一般の外科をマスターしてからやるべきであるというお気持ちでしたから、なんでもやらされました。ところがリウマチを患いまして、メッサーザイテに立てなかつちやうて。それで循環器系の内科をやるようになりまして、今は心研の広沢弘七郎所長に師事しております。

昔も今も医者の子弟が医者になるといったケースが多いと思いますが、私の級では、卒業二十周年記念の行事の一つとしてアンケートをとったなかで、在学時の家業についてみられました。医業の者は役員四十名中十名しかおりませんでした。当時はお金もかからず一生懸命やっていたらどうにかついでに、私、いままらとても医者になれなかつたと思えます。

牧野 私も大方の先生方がそうでいらつし

はありませんが、父と私の考えで産院を選びまして産院で勉強いたしました。

それから今は眼科で美容整形だけ専攻しておりますけれども、はじめは産院の眼科の医局に入りました。どうして眼科を選んだかといふと、私、もともと細かい手先の仕事が好きでして、大変なべが好きなのものでしたから、ずっとオペができるような科で、しかも比較的、体力的に楽だということを考えました。それから同級が小児科を開業しているものですから小さいころからよく見て、まして、小児科というのはどんなに大変な科であるかということも、もライヤというほどわかつていました。住診も多いし、それからとかくステルベンするというような科はちよつと避けようと思つたんです。目でしたら失明はしてもステルベンはしないだろうということとで（笑）眼科を選びました。

熊谷 私も家は医師じゃありませんけれども、私の親戚、いとこや周りに医者がおりましたので、それで私も一つの職業……はじめて学校の先生になるつもりで、女高師を受けるつもりだったんですけども、やはり職業を一生持つていくには医師がいいんじゃないかということ、いとこも入っていました女子

やるように、両親とも医者でございます。

また両親の実家もそれぞれ医者でございます。私は四人兄弟でございますけれども、医者になつたのは私一人です。やっぱり子供のころ一番近い存在である両親が医者であるということから、なんとなくということも言えますけれども、一番強烈に私が医者になろうかとはっきり自覚しましたのは、小学校三年のときに疎開いたしました時です。戦争がひどくなりまして、父は軍医で北支にとられ、母が子供四人と古い看護婦を連れまして信州へ参りました。母の実家が信州の上田からちよつと入りました丸子なんです。丸子には医者がおりましたけれども、その奥に入った長久保新町という無医村で、ぜひ医者に来てほしいということ、そこに疎開したわけなんです。そのときに、疎開先に母子家庭が何軒もおられましたけれども、その方々皆さん、収入がなくて大変生活に困つておられました。ところが私の母はいちおう小児科の医者でございましたが、無医村に行きましたから小児科だけじゃなくて産科から内科から耳鼻科、眼科、全部いたしました。そのときに子供心にも母が働いている様子を見まして、経済的にももちろんですけれども、それだけじゃなく

医専を選びました。

でも卒業してすぐ結婚しましたので、医局にも残らないで子供を育てることに専念しておりました。終戦直後、主人が軍人でしたので帰つてきませんので、それから勉強をはじめました。幸いに疎開いたしましたところに坂口康政先生がいらつちやいました。先生に手を取るように内科を教わりまして、六年間ですか一週間に一回うちへ来て下さつて私の患者を診ていただきました。ときどき東大にも行つて、むずかしい患者はみんな東大にお願ひして、そういう個人教授みたいなありがたい環境で勉強させていただきました。はじめ総合病院のような、田舎ですので各科を診る病院に入りまして勉強させていただきました。私の住んでいる所は無医村だったのでどうしても開業してほしいと、村の人たちがみんな力を合わせて家を建ててくださつて、二年ほどたつてから開業いたしました。まだほんとに力もなんにもないんですけど、坂口先生を頼つて……。それから後に、亡くなられましたが東京医大の産婦人科の齋藤三郎先生も病院にいつもいらつちやいました。私に産婦人科をしないかとおつちやいまして、鉄軌のときで男の先生いらつちやいませ

て「ああ、お医者さんが来てくれてよかつた」という町の人の表情や、地域社会に奉仕している一途な母の様子を見まして「ああ、やっぱり医者が一番いいな」ということをつくづく考えまして、はつきり決心したのは小学校三年のときだつたと記憶しております。

榎 えらいねえ。

牧野 それから中学、高校と、両親がタリスタンなものですから女子だけのミッションスクールに入りました。そこはいわばお嬢さん学校ですからあんまり東大にいくの産院にいくのという受験体制ではないものですから、私、高校二年ぐらゐから自分で、今でいう予備校に放課後通ひまして、なんとか浪人しないで医学部へ入つてやろうと思ひました。それで産院と女子医大と両方受かつたわけですけれども、母は自分の母校である女子医大にいくように強く主張しました。というのは、女医は医者の全休の一割ぐらゐですか、非常に少ないんですね。先輩・後輩といろいろつながらあるのはどうしても女子医大のほうがいいだろうということでしたけれども、私、それまで女子だけの学校にいたものですから、どうも男の子のいる学校のほうがいろいろな気がしまして（笑）そればかりで

で、何でもしなくちやありませんから、先生にまたつきまして産婦人科を習いました。また耳鼻科も習ひして、それから外科の手術といふとお手伝ひして、ルンパールもみんなして、それからアシスタントですけどアップも百五十人ぐらゐをいたしました。それはもうほんとに、今考えると恐ろしいようなことですけれども、全部今になって役に立っています。あらゆることを勉強させていたでいて、もう何でも屋でございます。（笑）

困つた男性患者

榎 女医としての喜びはなんですか。

熊谷 それは女医だから……の喜びじゃない、医員としての喜びだろうと思ひます。

一同 そうですね。

熊谷 やっぱり患者が治つて「先生のおかげで」といって、そう言わなくても、元氣になつて治られたというのを見るのが一番喜びですね。

榎 一番困つたことは……。

熊谷 そうですね、住診なんか頼まれて行つてあげられなかつたときに、このごろはもう行きませんが……。田舎はみんな夜になると来んですよ、昼間働いて、ですからい

つ起こされるかわからない。それで自分が病
氣で行かれないかたまりしますと、一人です
から困りましたね。一日行ってあげなかった
ことを悔いていたことがあります。

榎 一番困ったのは？

熊谷 私はじつは産婦人科の検診台が入っ
て、最初に診たのがないんです、腹が。それ
は結婚しているんですよ。山奥から来た若い
患者で、子供ができないからって来たんで
す、夫婦で。びっくりしましたね。それは困
りましたね。(笑)それが私の最初の患者な
んです。

榎 金井先生は一番嬉しかったことは……

金井 やっぱり女医としてということにな
しに、医者として嬉しかったことということ
で、もう熊谷先生のおっしゃられた通りなん
です。だいたい先生ね、女医とか男の先生と
かって、分けるのはわかるけど、榎原先生な
んかは、医業にたずさわるものに性別はない
という考えで、外科の当直とか、それから受
け持ちの数を減らすとか、そういう手かげん
なんかいっさいなさらなかった。だから男の
先生方と同じように何でも仕事をしてしまし
た。わりに女医だからという差別感がない
ですね。たとえば食事ときでしたら先生方に

お茶をついで回る、女だからそうするのは
なくて、自分が飲みたきや自分で飲む。人も
飲みたいだろうからついてあげる、そういう
ような気持ちですつと過ごしてきたもんです。
だけど診療して困ったこともありま
す。私、じつは独り者なんです。ま、これか
らもまだ独り者だろうと思うんですけども。

牧野 それはわからないわよ、先生。(笑)

金井 あるとき、ある患者に「先生、パイ
プカットしていいだろうか」という相談を受
けたんです。今ならわかるんですけど、当時
わかんなかったんです。

牧野 卒業したて？先生。

金井 いや、それが相当たっているから、
いかにうといかということ。(笑)それでパイ
プカットするんだから禁煙かなんかと、そう
いうふうに考えを持っていったんですけど、
「何？」ってすぐ聞かないで。そのうちどこ
かで話がつかるだろうと思つてね。そうし
たらやっぱり到達しないので「なんだ先生、知
らなかつたのか」ということでね、恥かしい
やつたけど、やっぱり夫婦生活の問題聞かれ
るのが一番困る。私、内科系でしょう。心臓

関係が主ですから、切実な問題でしょうけれ
ど、それ聞かれるの一番困るんです。教科書
だのいろいろ雑誌がありますでしよう。その
知識を総合してなんとなく返事はするんです
よ、いかにも知つてるように。(笑)

熊谷 私もそういう困った経験はありま
す、男の方。私、泌尿器科でないのに診てほ
しいと強引に来るんですね。「うちはそれ診
られません」と言うんですけどね。

それからはんとお話みたいですけど、田
舎で男の先生がいらつしやなくて、何でも
見なくちゃならなかつたけども、体全部触診
して、「舌を出してください」といったら、
こつちの下のほうを一生懸命……。(笑)

榎 熊谷先生、患者さんに好かれたことは
ないですか。

熊谷 でも、みんなそうなんじゃないで
すか。患者さんは信頼しますとその医師を好く
んじゃないですか、そういう意味で。

榎 それが高じて……

熊谷 手を握つただけで治るとか、そんな
冗談は聞きますけど。(笑)

金井 それは先生のおっしゃる通りに、好
かれるというんじゃないでございまして……高
われる柄じゃないんですけど(笑)あります

ね。たとえば私、医局にいたころ、心臓手術
をして回復室に入ってる患者さんがうわ言に
私の名前を呼んでるとかね。

むすかしい家庭との両立

榎 斎藤先生は喜びはどうですか。

斎藤 やっぱり患者が治ったときね。まあ
私、小児科ですからね、亡くなるということ
はまずないのね、子供が。私、昭和二十二年
から開業しているんですけど、意外と少ない。
熊谷 もうずっと死亡診断書は書きません
ね、年寄り以外は。

斎藤 そんなに悪くなれば、私はほとんど
病院に送りますね。だから死亡率というの
は少ない。私たちはほんとに家庭医ですから
ね。大きな病院と違うから死亡率というの
は少ないですね。風邪引き患者、と言われる
けど、健康保険の請求書いってるとほんとにそ
う思っちゃらわ。

でもやっぱり女の人でも一生続けられる仕
事を持つという事は非常にいいことだと思
つて、それが私は一番喜びですね。困つたとい
うのは、やっぱり家庭を持って子供を育て
て医者をしているという事は、非常に大変
なことね。結婚後は開業して、職場が同一屋

内にあり、主人も医者でしたから、まがりなり
にも仕事と家庭の主題、母としての務めを両
立させてきましたが、家族の協力、理解なし
には到底つづけられないことで、主人にも子
供にも、随分と不自由な思いもさせ、淋しい
想いもさせたと思います。それでもこちらは
精一杯で、殊に主人が急逝してこの十年、対
外的な仕事もふえたわけで、慢性化した人手
不足に悩み、税金のこと、毎月の保険請求の
事務、医師会のこと等々、時には押しつぶさ
れそうになり、非鳴をあげて、何もかも廃業
したくなることもあるわね。主人が亡くなつ
た時、高三だった長男も、ようやく医師免許
をとって、最近では冷ややかに「お母さんは合
理性が無い」とか「保険請求事務もコンピュ
ーターにすればいい」とか言いますが、もう
こちらの頭も大分動脈硬化で、おいそれと切
りかえがうまくゆかないでしょ。私は私なりに
に、マイペースで、彼にさらわれないように
生きてゆきたいと思つています。一生の仕事
として選んだこの医業も、まだまだ続けたい
し、勉強もしてゆきたいと思つています。

榎 そういう話は牧野さんには通じないだ
らうね。

牧野 ウフフ。私はこの年でまだ独身でこ
ざいまして、しかも両親つきで暮らしてお
ります。母を見ていますと、本当に大変だと思
います。診察しながらお手伝いさんいろいろ
家事を指示し、保険書きに税金に、子供の
小さい時はPTAに出たりご近所のおつき
あい、父の世話に子供の面倒、そして短歌を
歌む自分の時間もつくり出している、一人何
役もですが、父は医者業だけでいいものね。

斎藤 外務大臣に大蔵大臣に厚生大臣に……
(笑)

熊谷 子供の遠足にお手伝いさんが行つて
自分はいつも行けない、他の母親のように出
来なかつた時は本当に悲しかったわ。

金井 今の若い先生は家庭第一のようです
ね。大学病院の人たちでも時間がくればさっ
さと帰つてしまふそうですよ。

清見 家庭を持つと一時期やめる人が多い
ですね。私はまだ結婚しておりませんが、何
とか続けたいと思つているんですけど。

斎藤 男の人の理解がないとできないわね

熊谷 時々、奥さんをもらいにくくなるわ。
(笑)

一同 ほんとな。

当直室にしっかり鍵を

榎 清見さんは喜びはどうですか。

清見 やっぱり同じですね。患者さんが退院なさるときというのは、形成ですから明らかに表に出てよくなったというのがわかりますから、患者さんがよくなったということで大変喜んでくださると、ほんとに嬉しいですね。

榎 お困りになったことはたくさんあるでしょう、お若いから。

清見 そんなにないですけど、当直がありました。当直はべつにいやじゃないんですけども、身の危険というか、夜一人で泊まるわけですね。大学病院ですから外科なんかだと二人とか三人くらいいらっしやるんですが、うちの科は一人で泊まりますから、もう病院ですからいろんな人が通るわけなんです。物音なんかしたり、窓のガラスに人影なんか映るとビクッとしちゃって。私が入ったというところで、当直室に鍵をしつかりつけていただいたり、そんなことはありませんけど。

榎 それから患者さんも、ほんとに男女の差別ってあんまりしやないけないうちの科もさっきも話してやっぱり男の方でいろいろ、さっきのお話じやないですけど、下のほうとか、そういう方は男の先生に持っていたらいい。や

っぱり患者さんも恥づかしがるし、あんまり女の先生が主治医で張り切っているより、男の先生のほうがなんとなく患者さんも安心するようですね。

榎 牧野さん、なぜ美容整形に入ったの？

牧野 私、先ほどお話ししたように、手術が好きで眼科に入りましたけど、どんな大病院にいらしても眼の手術はせいぜい週に二回ぐらいなんです。で、慶応の医局に六年お入りしてティータルいたって、これからどうしようかと思っただけで、なんか眼の関係で毎日オペができることがないかなと考えたんです。そうしましたらまあ美容整形ぐらいしかないんです。で、慶応の先輩の梅沢先生がやっておられる十仁病院にちよつと見学に行きました。朝の九時からオペやっているんです。「こりやあいわ」と思っています。(笑)そこにお世話になってから今年でちょうど十年になります。きょうもオペを十三人やつてまいりました。主に二重まぶたと目の周りのしわ取り、ブトーゼ、それからストラビスマスですね。もう細かいオペやっていると熱中しちゃうんですけど、まあ生きてる人間ですから煩わしいこともいろいろございますけれども、そういうことはほんとに忘れませうね。

趣味は生活の潤滑油

榎 次に趣味の問題ですね。金井先生は趣味としては絵ですか。

金井 はじめスポーツが好きだったからスキーなどやったけど、自分の体がこんどついていかないのでしよう。結局今、油絵をほそぼそと描いている。

榎 どんな先生に習いました？

金井 高田保雄という先生なんです。とくにどこにも所属していらっしやらない先生ですが、梅原教室出て岸田剛生に深く傾倒しておられ、繊細なそして敏しい東洋的油絵をお描きになります。この間も科学庁で先生のお品をお買い上げになったんですが、それでいて弟子の個性という好みというか、そういったものを伸ばしてくれる先生です。昨年の医家美術展に出した私の作品が榎村廣千代先生に「粗々しい画き方」と批評されました。(笑)そんなのとは全然違う独特の調を描かれる先生です。で、そこで週一回、月三回ということなんです。

榎 それはどういふ時間をお選びになるんですか。

金井 本当は決まってるんですけど、何曜

日って。だけど私の仕事の性質上、その点を非常に汲んでいただいで、先生と私の合う時間にその先生のアトリエにいらして、先生の選んでくださった、生物が主ですけど、それを何回もかかって描くわけです。去年なんか一作しかでき上がりませんでした。

榎 でき上がるというよりも、絵を描いている間の集中というのが……。

金井 そうなんです。他のことはなにも考えませんからね。

榎 専門の仕事からまったく頭が離れるということが、趣味のいいとこですね。それで、どうして油絵を選んだわけですか。

金井 どうしてという理由はないうちですけども、わりに子供のときから、いわゆる図画が好きでしたね。ほかはみんな乙でも図画は甲というときがありました。

榎 お父さんやお母さんの中に、絵の上手な方がありましたか。

金井 そう言われれば好きだと思えますね、兄も姉も。それから父が写真狂でした。私も写真、ずつと若いころ一時やりました。

榎 斎藤先生はどうですか。

斎藤 私はもの心つくころから邦楽です。はじめは長唄ですね。それから山田流の琴で

す。それは女子医専に入るまでやっています。女子医専に入ってからお師匠さんが亡くなったんです。それで学校も忙しくなつてやめまして、そしてこんど卒業してからもう一回始めようかと思つたら、もう戦争中のできなくて、結局昭和二十七、八年ごろからおけいこ始めて、今は豊本、それから小唄と長唄と三つ。だからおけいこが毎月十二日あるわけですね。

一同 ウワッ！

熊谷 合い間に患者さん診ると。(笑)

斎藤 非常に生きがいを感じてるんです。それのときはもうみんな忘れちゃうの。三味線の音がチーンという……。

榎 お師匠さん来てくれるんですか？

斎藤 豊本と小唄はお師匠さんが夜いらっしやるんです。長唄は行くんですよ。だから長唄は一月月に一回ぐらいしか行かれなかつちやうの。

榎 それで、はじめに子供の時分におやりになったときは親御さんに……。

斎藤 うちが赤坂のそばなんです。花柳界のそばで、ねえやにおぶさつて、よく泣くと花柳界のほうへ連れていくでしよう。それで三味線を聞くに熱つちやうんだというの。

(笑)それでははじめ一人でやっちゃったのよ、おけいこに。隣りのおばさんがやっていたわけ。そのおばさんにくっついて行っちゃった。そのとき帰ってきて、オッパイを飲んだというのよ。(笑)昔は離乳が一年なんていうことがないでしよう。だから四つか五つだと思っただけで、それで三味線をこいうふうに弾いた覚えがあるのよ。足を出して足の中に調を入れてこやうらなやな調かないわけよ。

榎 なにしる好きだったんですか。

清見 限うほうと弾くほうとどちらがお好きですか。

斎藤 今、私はいろいろやっているんですよ。唄はいろいろにさしさわがあるのね。長唄をやつてると小唄らしくなつちやうの。小唄ばかりやつてると長唄とか豊本とかが唄えなくなつちやうのね。それで三味線を主にやつての。でも唄もやっています。

清見 私は趣味というのとは随分しらないんです。私がやり始めたのは中学二年、十四歳のときです。

榎 お母さんに勧められたの？

清見 母はずつと小さいころやっていたんですけど、私、音痴なものですから、踊りよりもとりあえずピアノでその音痴を直さなく

てはと、子供は小さいときはなにがなんでもピアノをやらなければという両親の教育方針でピアノをやるようになり、踊りは自分の意思で中学生のときに始めたわけですね。ピアノは中学二年ぐらいでやめました。

清見 お師匠さんほどなたですか。

清見 学校やなんかの都合でいろいろ替わりまして、今の先生は花柳寿宗先生とおっしゃるんですけども、とってもいい先生にめぐり会えまして、それが日本医大のときの同級生の紹介で、今その方は日本医大の眼科の医者が二人はと来ておりました、あと下級生が二人はと来ておまして、お医者さんの御

清見 週二回です。

清見 週二回です。

清見 日本舞踊というものは、体のこなしというものが非常にきれいになるんでしょうね。清見 どうでしょうか。やっぱりどうして運動不足になりますから、ちょうどいいですね。使わない筋肉を使うから非常にいいですし、楽しいですね。それとやっぱりお医者さんと同じで長く続けられますからね。ペン1やなんかだと、ちよつと中断してしまつてなかなか次に始めるのが大変ですけど、踊り

でしたらほんとに年を取ってもどうか長く続けられるし、ちよつとやめてもすぐまたやるということがありますから。

清見 私、なにしろ好きですからね。将来どつちに進むのかしらという感じですが、(笑)今はもう仕事のほうが結構忙しいですからほんとに趣味程度なんですけど、学生時代はおけいこが主で、学校にそこら通うという感じ。で、(笑)学生時代というのはやっぱり暇がありましたから、おけいこ場で勉強しておけいこ場から通っていたんですね。通いの内弟子だったんです。

清見 舞踊で尊敬している人ほどなたですか。

清見 舞踊で尊敬している人いたら、歌舞伎の中村歌右衛門さんとうちの師匠しかいません。しかないんですけど、語弊がありますけど、他の方はあまりよく知らないものから。

熊谷 熊谷先生は短歌は長いんですね。

熊谷 でも、先生につきましてほんとに勉強しましたのは遅いんです。二十九年からです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

今、世の中でいろいろ教育ママがどうのこうのと言われていますけども、やっぱりやらせてもらえる環境だったらいろいろやらせてもらって、ある程度成人してから自分の

仕事にも趣味にも熱中

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 先生ほどなたにおつきになったの？

熊谷 佐藤佐太郎先生に、アヲヲギ系統の。十四歳ぐらいからつくっていましたが、なにしろ好きなんです。まあ百人一首の影響があるんですけど、日記を書くにも歌になっていまして、三十一文字に書いていくという……

齋藤 私も短歌を戦争前ですが、「水蓮」に山本康夫先生というのがいらして、中国新聞の記者をしていらつしやって、その同人雑誌に入っていました。そうしたら、やっぱり非常に悪いこととか、心になんか非常に感じることもあるんですけど、もうほんとに上滑りの生活をしているのかもしれないんですけど、ぜんぜんできなくつちやつた。

熊谷 毎月出さなければならぬので作っています。日常の生活からいろいろと……

熊谷 日本舞のほうは？

熊谷 日本舞は、短歌の先生について一年あとかうから。ですから医家美術展も第三回展ぐらいから出していると思います。今年で二十五回展になりますからね。結局私が日本画を始めましたのも、図画が金井先生と同じで好きで、やっぱりいいお点ももらって、

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

熊谷 私もじつは母が先ほど申し上げましたように信州の出なものですから、人後に落ちぬ教育ママなんです。小学校から中学にかけて、もうあらゆるおけいこ事をやらされました。ピアノ、声楽、お茶、お花、水彩画、お習字とやらされて、今結局自分で残っているのは、へたの横好きの音楽とそれに関連してオペラを聴くことですね。それからお習字とその二つが残ったわけなんです。

で計画を立てまして、その行く時期にやっているとるを掛うわけです。いつ行っても当たりはずれがなくて一番いいのはウィーンですね。スターツオペーとフォルクスオペーと二つございまして、プロダムを見ましてホテルに頼んだり、あるいは前売り場へ日中行って買います、もう毎晩ですから、そう高いところも買えませんので。

樺 イタリアのオペラはどこへ行つたの？

牧野 イタリアはミラノとフィレンツェです。イタリアはとにかく気分屋のお国柄ですから、いちおう開演六時半となっていますので、一生懸命着物なんかきて六時半に行きますと、なかなか始まらないんです。みんなシヤンペンなんか飲みながら待っていますと、一時間ぐらいたってリーンなんて鳴りましてね。そこへいきますとドイツとかウィーンはきつちりしていて、定期に始まりますね。

清見 イタリアの病院のほうは、ちやんと九時から始まるんでしょうか。(笑)

牧野 どうでしょう。私はもう休暇を取りましたら、向こうの病院の見学なんか一切しないですね。うちの院長が「昼間どこの大学病院にいつて、形成外科でもなんでもいいから、関連の科をのぞいてきたらどう

か」と言いますけど、そういうことを忘れるための旅行ですから。(笑)

樺 それで書道のほうは？

牧野 書道は子供のときやっています、あと受験その他で中断いたしました。この十年ぐらいい前から仮名を始めました。先生は小山や子先生とおっしゃって、日本書道美術院の審査員で、今年、オリベッティ賞という大きい賞を取られた方です。仮名専門の先生ですけど、はじめ一人の先生で漢字も同時に教えていただいたんですけど、やっぱり力強さが足りないというか少々物足らなくなり、四年前から漢字専門の先生にも教えて頂いておられます。それから漢字の大きいのは若いうちでないと書けないんですね。半紙に四字ぐらいい書くのはよろしいんですが、大字とか條幅なんかになりますと、三十代、四十代の体力があるうちにちよつと漢字をやっておきましょうと。すわって細かく書く仮名はお婆さんになってもできるんじゃないかと思いついて、このところ少し漢字のほうに力を入れてやっています。今年はおかげさまで仮名と漢字と両方、お正月に都の美術館に飾らせていただきました。その他にイタリア語を週一回、水泳に週二回、その間にコンサートや

オペラに行きまして、週一回の当直がございまして、まっすぐうちに帰ることは殆どないんです。やっぱり趣味というのは何事も忘れて没頭するというのが醍醐味なんですね。私は日曜日は全休、さつきいったように家事のことをあまりやらないですから、その弱さがありますけれども(笑)とにかく趣味だけの一日なんです。

斎藤 優雅ねえ。(笑) われわれはその間に健康保険を書かなきゃならない。

牧野 私は九時から五時までいたらスバツと出られますでしよう。

熊谷 勤務医はそれがいいですね。自分で開業しているのと違って雇われますね。でも私たちって、医者の方だけでも忙しい、忙しいって音をあげながら、家庭のことやっつて、その上に趣味の方にも夢中になってしまつて、自分で忙しくしているみたいね。結局は欲ばりなのかしら。(笑)

斎藤 好きなことがあるから、仕事もやっつてこれたということよね。

樺 今晚はみなさんの飾らないお話をうかがうことができ、お忙しいところをどうもありがたうございました。